

年 間 授 業 計 画

科 目 名	政治・経済		単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 全学科	展開	必修	選択
教科書名	高等学校 政治・経済(清水書院)				副教材名				
科 目 の 目 標	広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解させる。								
学習内容と進め方	現在の政治や経済のあり方について、基本的な知識を確認していく。教科書やワークシート、プリントを利用した学習を中心に行う。また、時事問題について、新聞の切り抜きをまとめた資料を使って、現在の様々な課題について触れ、自分の意見をきちんと持てるよう、進めていく。								
学 習 の 留 意 点	(1) 2 学年で履修した公共の内容を確認し、その上でまだ触れられていない分野の内容を取り上げる。反復練習で学力を身に付けていく。 (2) 課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。								
月	単 元	予備職	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)		
				1	2	3			
4	第1編第1章 現代政治のしくみと日本 1 政治とはなにか 2 法とはなにか 3 現代民主政治へのあゆみと基本原理	1 1 6	政治と自分たちの生活の関係について 法の種類、法律について 民主政治の成立とその思わぬ落とし穴	○	○	○	政治に対して、無関心ではいられない理由をきちんと理解している。 民主政治の成立過程とナチズムがどのような背景の下に出現したかを理解している。 三つの政治体制の違いを理解している。 日本国憲法の三大原理の背景を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
5	4 議会制民主主義と世界の政治体制 5 日本国憲法の成立と基本原理 (前期・中間考査)	2 3 1	議院内閣制と大統領制、権力集中制 日本国憲法の特徴は何か	○	○	○			
6	6 基本的人権と新しい人権	7	自由権・平等権・社会権・新しい人権とはどのような権利か	○	○	○	日本国憲法の人権規定の部分がたいへん厚い(3分の1をしめる)理由を理解している。 憲法の平和主義の理念を理解し、現在の日本の安全保障の現実を考える。 立法・行政・司法のしくみをきちんと理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
7	7 平和主義と安全保障	5	憲法の平和主義と自衛隊に期待される役割について	○	○	○			
8	8 日本の政治機構	4	国会・内閣・裁判所の役割	○	○				
9	(前期・期末考査)	1							
9	9 政党政治と選挙制度	6	政党の役割と日本の選挙制度 政治権力は何のためにあるのか	○	○	○	選挙権を行使するにあたっての基礎的な理解ができている。また、有権者として、政治に関わっていくこうとする姿勢ができている。 人口や産業が都市に集中し、地方が現在どうなりつつあるか、課題を見つけている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
10	10 地方自治	2	地方自治の本旨とその課題		○	○			
10	第1編第2章 現代経済のしくみと日本 3 物価とその変動	1	デフレとインフレについて	○	○		物価の変動が自分たちの生活にどう影響するか、実際の生活に照らし合わせて考える。 日本の財政の実情と課題を理解している。 復興期、高度経済成長期、石油危機、バブル経済期、失われた20年の日本経済の特徴について、理解している。 労働基本権をきちんと理解した上で、日本における雇用や労働環境の変化を取り巻く現状と課題を考えている。 少子高齢化における社会保障制度の課題とこれからの福祉社会について考え、自分はどう関わろうとしているのか。		
11	6 財政のしくみとはたらき 7 日本経済のあゆみ	2 4	歳入と歳出について 戦後復興から現在までの日本経済	○	○	○			
11	9 労働問題と労働環境の変化	4	労働基本権と労働組合の役割について	○	○	○			
	10 社会保障制度の充実 (後期・中間考査))	4 1	日本の社会保障制度のしくみについて	○	○	○			
12	第2編第1章 現代の国際政治・経済 1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合と国際協力	2 3	国際法の成立とその役割 国際連合の役割とその課題	○	○	○	国際法に強制力がないことを理解している。 国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解し、時事問題にも関心をもっている。 第二次世界大戦後の国際関係について、概略をつかんでいるか。最近の大国の動向について関心をもっているか。 冷戦終結後の地域紛争や民族紛争の実情を理解する。紛争の解決に対して、自分が協力できることは何かをきちんと考えているか。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
	3 国際社会の変遷と動向	4	冷戦及びその終結後の国際関係の展開	○	○				
1	4 国際紛争と軍備管理 (後期・期末考査)	5 1	地域紛争とテロリズムの背景について 軍縮への取り組みと課題	○	○				
2 3									
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。								
評価の観点	観 点	趣 旨							
	1 知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。							
	2 思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。							
	3 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。							
評価基準	1 知識・技能	A 基本的な概念や知識を体系的に理解している。 B 基本的な概念や知識を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念や知識を体系的に理解が不十分である。							
	2 思考・判断・表現	A 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身につけている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけていない。							
	3 主体的に学習に取り組む態度	A 社会や世界と関わるために、積極的に様々な資料を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 社会や世界と関わるために、積極的に様々な資料を活用しようとしているが、十分とはいえず、まだ向上の余地がある。 C 様々な資料を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしてできない。							